

嘉悦大学 ビジネス創造学部教授 こが ひろみ 古閑 博美さん



上) 学内で金原亨世之介「嘉悦奇席」を主催 11/1
左下) 志塾で金原亨世之介師匠と

「魅力行動学」とは古閑博美さん(64歳)が提唱した学問。動物行動学とか人間行動学といった言葉は聞きますが、魅力行動学とはいったいどのようなものなのでしょう。

魅力行動学とは「さまざまなお出合いを通して魅力的な自己形成と人間関係を求める行動の学」と定義しています。そして魅力行動とは「行動の質・量・形・意味に魅力を付与した行動」です。そのために「徳育・体育・知育・技術・食育・美育・遊育」の「七育」が必須で、身の回り30cm圏内から始める魅力行動を提唱。それには「さつそく親切・さわやか親切・さりげない親切」のさささ親切。なるほど、躊躇なく、押し付けがましくなく親切ができる人はとても魅力的です。

魅力行動学のキーワードは「魅力・行動・出会い」。礼儀作法を心得、適切な敬語表現ができ、コミュニケーション能力と豊かな感性がある。そこに買われているのは、論語の中の「恕の精

神」。相手の立場に立ち、思いやりをもって行動すること。それは混沌とした現代社会だからこそ余計に必要とされることかもしれません。

スチュワーデス経験が今に活きる

古閑さんは山口県光市生まれ。子ども時代は明朗活発ながら本の虫。本が大好きだったとか。県内の進学校へ通い、大学に入るために勉学に励んでいました。ある日のこと、東京の大学生だった兄から1通のハガキが届きます。

「日本航空がスチュワーデスを募集しているから、受けてみないか」と、後にも先にも初めてもらった兄からのハガキには、真剣な気持ちが表れていました。高校で英語検定2級を取得し、当時のスチュワーデスの応募資格、身長、体重、視力をクリアし、健康的で

明るいという条件にピッタリ当てはまると、兄は妹に薦めたのでしよう。

当時、スチュワーデスは女性憧れの職業、航空運賃も高く、誰でも飛行機を利用できるという時代ではありませんでした。しかし、古閑さんにはその志望はなく、「せっかくだから試しに受けてみよう」程度の気持ちで受験。そうすると1次から3次まである試験に合格。100人に1人という難関でした。高校のクラス担任の勧めもあって、日航の訓練生に。しかも国際線クラスで半年間、みっちり仕込まれました。

救急看護、座学にお茶、お花、テールマナー、化粧の仕方など、一流の専門家の指導を受けました。半年後の最終試験と面接で、国際線クラスの中で何と、20人中で1人合格したので。しかも四大卒、短大卒の同期を飛び越えて、です。「訓練は楽しかった。やればできるんだと実感しましたね。そして物事には基礎が大事だと学びました」。18歳の瑞々しい頭と身体に沁み込んだ経験が、今の仕事の原点になっている訳です。

離婚を契機に教員の道へ

ヨーロッパへアメリカへと飛び、客室乗務員の仕事に邁進していた古閑さんでしたが、2年余り後、初めての恋愛の相手と結婚します。アメリカ留学中の男性とハワイで知り合い、二十歳



江戸東京たてもの園での
投扇興風景

「魅力行動学」の原点は スチュワーデス経験に

そこそこで家庭に入ったのです。嫁ぎ先のお姑さんは俳人で、言葉使いに厳しい人でした。句会の手伝いを通して、新しい世界を知り、貴重な体験をしました。年子で男児を出産。子育て中に、日本女子大学通信課程の学生となり、4年間で卒業。通信制は途中で挫折する人も多いと聞きますが、持ち前のガンバリ精神とともに、先輩から「資格取得の大切さ」をアドバイスされたことにもあるようです。

結婚生活7年で協議離婚。幼い子ども二人を連れて婚家を去りましたが、「住居や養育費の面倒はみてくれましたので、恵まれていたのではありません。離婚しなかったら今の私はいませんか」と語る通り、その後、専門学校スチュワーデスコースの講師をスタートに非常勤の英語講師や看護専門学校、ガルーダ航空のVIP担当フライトなど、いろいろな仕事で舞い込むようになりました。嘉悦大学（当時は嘉悦女子短期大学）へ招かれたのは30年前のことでした。その後1997年に東洋大学大学院文学研究科博士前期課程を修了。現在はビジネス創造学部教授、学内の地域産業文化研究所所長、また魅力行動学研究所を主宰し、学内外で精力的に活動の日々を送っています。

日本の伝統文化を学生に体験させたい

研究室で取材前にお茶を点ててくださいました。おもてなしの一服はほっこりと緊張を解いてくれます。

三立（立腰・立額・立身）を提唱する古閑教授の授業は、毎回3分間の「正心静座」を実践することで始まります。「学生にはオンとオフを区別しためりはりある生活をしてほしい。教室では勉強する。怠けることはもったいないこと」。挨拶の仕方、ノックの仕方ひとつとっても、社会人になるとその立居振る舞いが評価されます。「あの時の授業が社会人になってみてよくわかり、また先生の本を読み返しています」という教え子もいると、笑顔がほころびます。

魅力行動学研究所の活動の一つに「日本文化に親しみ楽しむ会」があり、学生に歌舞伎や文楽、落語などを身近に鑑賞させたいと、定期的に企画。毎年夏には秩父の三峯神社へ行き、禊（滝修行）を実施しています。儀礼文化学会の認定講師でもあり、江戸の遊び「投扇興（とうせんきょう）」を10年にわたり、江戸東京たてもの園での正月あそびイベントで紹介。江戸の文献を頼りに和紙で台的手作りし、活動の作り方も指導しています。活動の舞台は広く、鎌倉円覚寺の黄梅院で「志塾」を主宰。年1回「論語」を学ぶほか、これまで培った人脈から講師を招き、さまざまな分野の講義を実施。

だれでも申し込めます。

魅力行動学実践し、あらゆる日本の伝統文化を身につけ語学力抜群の国際感覚。鬼に金棒のパーフェクトな女性です。が、行きつけである大学近くのカフェのオーナーに訊ねると、「先生っておちよこちよいでね。自宅で転んでよく骨折するの。親しみやすい、可愛い方よ」とオフの素顔を語ってくれました。古閑先生は強く、しなやかな人、そしておちよこちよいでチャームングということも加えておきましょう。

地域産業文化研究所

客員教授による講座（どなたでも参加可能）

■「日本文化のアーカイブス」

12月11日（金）・1月8日（金）

いずれも14時40分～16時10分

嘉悦大学A棟1003教室

講師 石田雅彦氏（文学博士）

日本歴史研究家 茶道裏千家正教授）

■「『モナリザ』の謎と魅力

～表情と仕草の表象学～

1月14日（木）2限10時40分～12時10分

3限13時～14時30分

（2限、3限どちらでも直接どうぞ）

嘉悦大学A棟202教室

講師 齋藤陽一氏（美術ジャーナリスト）

元NHKプロデューサー）

※「魅力的な行動・表現」の講座

（古閑教授）を公開

（問）042（466）3711 大学代表